

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671000224
法人名	医療法人 微笑会
事業所名	グループホーム ほほえみ
所在地	鹿児島県指宿市東方314-1 (電話) 0993-22-1030
自己評価作成日	平成26年5月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・私達の理念の基に、ご利用者様中心のケアの実践に取り組んでいます。ご利用者様一人ひとりの生活習慣や思いを尊重しながら、明るく和やかな雰囲気の中、より自然に日々の生活を送っていただけるように努めております。

・認知症の知識・理解については、外部研修への参加、施設内での勉強会で学ぶ機会を設け、ケアの質の向上を図っています。

・医療面においては、運営母体のクリニック・医療連携看護師による日常的な健康管理に加え、急変時の支援体制が整えられており、安心した生活を送ることができています。

・「どんな時でもあなたの住み慣れたこの地域の中で、あなたと共に笑い、泣き、手を取り合って進みます。なんといってもやっぱりあなたの笑顔がうれしいから」という開設当初から理念は、利用者や家族、職員に浸透しており、利用者暮らしや職員のケア実践の折に触れ、常に理念に立ち返り利用者の思いに寄り添うサービスの提供ができるよう理念が定着している。

・ホームは、指宿市内中央よりやや山川寄りに位置している。国道から車で2分程度の閑静な住宅地で周囲に緑も多く、地域住民とは朝・晩のご近所付き合いもあり自治会にも加入して地域交流も積極的におこなっている。

・管理者と職員との信頼関係が強く職員の定着率も高く安定雇用されており、職場環境も良く、職員の職務に対する意識が高い。また、研修会などへの参加も管理者から各職員へ適切な指導やアドバイスなどあり、スキルアップに必要な研修への参加を検討したり、職員からの希望があれば外部研修会へ参加が可能になるよう配慮し、サービスの質の向上に向けた職員教育が実践されている。

・母体が医療法人であり近隣の医療機関との連携や協力関係が密にあることから、医療連携や支援体制が整備されており、重度化や看取りについても利用者、家族、医療機関、事業所との段階に応じた話し合いを踏まえ本人本位のケアに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした理念を揚げ、朝礼時に全員で唱和することで理念を共有し、利用者に接することの大切さを確認している。	あなたとともに笑い、泣き、共に手を取り合い…といった開設当初からの事業所の理念を朝礼で唱和し共有して日々のケアに活かし利用者や家族、地域の方々に接する時の心のよりどころにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、総会や地域活動、行事等に積極的に参加したり、地域の方々との交流を毎年計画している。	自治会に加入し、回覧板を通して清掃活動、六月灯、敬老会やクリスマス会、総会への参加や交流に積極的である。また、日常は、近隣の散歩や駐車場のベンチでの外気浴の時などに住民と交流しコミュニケーション活動に力を入れている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	職員全員が認知症サポーターの講習を受講しているが、地域貢献への機会が少なく、見学者や訪問者、ご家族の方々へ認知症の方への支援の方法について話をしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の取り組みや活動について報告し、事故や緊急時の対策等についての意見や助言を頂き、サービスの向上に役立っている。	会議には、行政職員、知見者、公民館長、民生委員、利用者、家族代表などの参加があり、議題には事業所の活動報告や利用状況、ヒヤリハット事例や事故報告、行事案内、入職者の紹介、事業所の取り組み課題などメンバーからの意見をケアやサービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には、運営推進会議で利用者の現状や活動報告を行い、研修の依頼や徘徊ネットワークへの登録、日々さまざまな相談や助言を頂いている。	市担当者とは、直接面談して利用者や事業所の相談ごとについて指導や助言をもらっている。6月には、地域包括主催にて「身体拘束・虐待について」の講演会を計画している。また、援護系の職員も毎月訪問があり相談がしやすい関係性ができている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を毎月開き、現状の確認を行うとともに、勉強会を定期的実施することにより、身体拘束への理解を深め、身体拘束を行わない工夫や努力に繋げている。	身体拘束についての研修会は毎年行事計画に位置づけており、今年6月は司法関係者を招いて講演会を予定している。現在、転倒のリスクが高く徘徊がある利用者に関してセンサーマットの導入を検討中である。内部研修会では、言葉の勉強会を始めとして、まず自分に置きかえてケアを考え職員の都合で拘束などしないなどの取り組みを職員一丸となって意識しサービスを提供するよう心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法を含む勉強会を定期的実施することで、職員一人ひとりが自覚を持ち、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用されている方もあり、必要性を感じる利用者について、他職種との連携の基、活用に向けた支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に運営規程や重要事項の説明を行い、確認を頂いている。契約の締結、改定等の際は文書で説明、疑問点については、十分な補足説明上、理解と納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見、要望は常に有難く受け止める姿勢を持ち、相談しやすい環境を作っている。また、ご家族の面会時には積極的に話をする機会を設け、意見や要望の把握に努めている。	利用者には、ケアをする中で直接意見や要望を聞き取ったり、家族からも本人の情報を得るようにしている。また、家族には運営推進会議、家族会、行事などの機会にそれぞれの要望などを聞き取り、ミーティングなどで職員間で話し合っ運営に反映するようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、ミーティングや朝礼の際話し合い、運営に反映させている。	管理者と職員は、普段からなんでも意見が言える良好な信頼関係があり、職員一人ひとりの意見はもちろんのこと、「共有ノート」を活用して、情報を共有し解決策を探り運営に活かして働く職員の意欲向上やサービスの質の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はすべての職員の現状を把握し、安心して働ける職場環境を整えている。また、現場の意見を尊重して、よりよい職場環境となるよう働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員のその段階に応じた研修を受ける機会を設けている。研修を受けやすいように、勤務形態を整え、受講費用を事業所が負担するなどの環境を作っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に加入、積極的に参加することで、管理者、職員が交流できる場や勉強会の場を設けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス開始時には、必ず本人の希望や不安な事などを時間をかけて伺いながら、一つ一つ本人が安心できる方法を提案しながらすすめている</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所時にご家族の思いを傾聴することはもちろん、面会の際には日頃の様子を伝え、些細なことも相談しながら、ご意見や要望を伺えるよう努めている</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所時利用者様には何が必要かを入所前を含め、ご家族からよくお聞きしたり、関係者からの情報を頂きながら他のサービス（特に医療など）取り入れている</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>会話の中で本人の希望をそれとなく聞いたり、見守ったりしながら自然な生活を行い、出来ること、出来ない事をよく見極めながら共に生活するように心がけている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所の際には、利用者様を家族、職員と共に支えていきたいとの希望をお話させて頂いている。また、面会の際には時間の許す限り一緒に過ごせる時間を設けている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた習慣（墓参り、温泉、会いたい人へ会うための外出）への支援やご家族との外出が継続できるよう支援している。遠方の家族には毎月、手紙や写真に添え近況をお知らせしている。	本人のこれまでの生活歴を勘案して、人や場所の繋がりが途切れることがないように家族との墓参りや温泉利用、外出を継続している。ホールには、公衆電話が設置してあり、家族や友人などの電話の取り次ぎをしたり、遠方の家族などには、絵ハガキやホームの機関紙を送って近況を報告するなど支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個人々の性格や関係を把握し、楽しく会話出来るよう席を常に工夫したり、利用者同士の交流を手伝いながら、関わり合える機会を設けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退所の場合も、職員が面会へ伺い、洗濯物の手伝いや入院中の不安や相談を聞き、関係者と話し合うなどの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にご家族から聞いたり、会話の中でお聞きし、困難な場合は日々の様子をよく観察しながら、ご家族と話し合いの上、本人の意向に近付けるように努めている。	利用者がその人らしく暮らし続けていくための支援について、本人や家族から聞き取ったり、連絡帳などで情報を共有して思いや意向の把握に努めている。また、意思疎通が困難な方には、言葉や表情などで真意を推し測り本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを活用して、ご家族の方にも協力を頂きながら、把握に努めている。在宅のケアマネージャーとの連携も取り、情報を頂いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの暮らし方、思いを尊重し、意思表示の困難な方は表情や様子に注意を払いながら、その場の状況を観察記録して、職員間で柔軟な支援が行われるよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いや意向に添うケアの方法を常に職員間で話し合い、介護計画に反映している。状態に変化がある場合には、新たに本人、家族等と話し合い見直しを行っている。	計画作成担当者は、日々の本人の暮らしぶりやケアのしかたなど定期的にモニタリングをしながら必要に応じて計画の見直しをしたり、ケアの方向性、本人や家族の満足度など勘案して現状に即した介護計画を作成するようにしている。また、遠方の家族などには電話や手紙で説明をして計画し、同意をもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は個人記録へ記入し、職員の気づきや工夫・結果については、連絡帳に記載し、情報を共有している。必要があれば、24時間シートを用い状態の把握に努め介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者の方の状態、状況はそれぞれであるため、常にご家族・職員を含めた話し合いと研修心を持ち、ニーズに対応していきたいと思っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでの暮らしで交流のあった方々とこれまで通りの関係が継続出来るよう支援している。地域の方とも積極的に		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の意向や受診状況などを入所時に確認し、希望するかかりつけ医の受診・往診の依頼を行っている。法人の医療連携や医師の診療も受けられるよう支援している	母体が医療機関であり、月2回の訪問診療や必要時の往診、医療連携看護師が週1回訪問し連携を図っているが、夜間帯は、近隣の医療機関なども対応するしくみがあり、本人や家族も安心している。また、眼科や歯科、皮膚科など他科受診は職員が付き添い受診後は家族に報告するなど支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の医療連携看護師と連絡を取り合い、常に利用者様の健康状態の把握に努め、日々の様子や気づきを伝え、相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合、必要な情報を病院関係者に提供している。退院の際には、病院関係者と連携を持ちながら、本人・ご家族が安心して退院出来るように働きかけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人、ご家族に重度化や終末期に向けた方針について説明、話し合いを行っている。入所後も状態の変化に合わせて、主治医やご家族との話し合いを重ね、方針を共有しながら関係者と共に最大限の支援に取り組んでいる。	本人や家族には、重度化した場合やホームでの看取りについての意思確認を書面にておこない、「看取り介護の指針」（ターミナルケアにおける緊急対応）にて詳しく説明をおこなった上で、段階に応じてその都度説明と同意を頂いている。昨年も、看取った実績があり、安心して最期を迎えられるようチームケアにて取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	これまで、緊急時を何度か経験し、母体の医療機関との協力、指導を受け、指示に従えるようにしている。また、消防署の救命・救急訓練を計画、体験している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時のマニュアルを作成し、夜間想定訓練、土砂災害訓練を地域の方、ご家族にも協力頂き、実施している</p>	<p>ホームは、土砂災害警戒区域に指定されており、溜め池対策や河川を広くしてもらうなど改善がなされている。災害時の避難場所を母体の医療機関に定め、年2回夜間想定訓練を実施。運営推進会議でも家族や地域住民、消防分団への協力を呼びかけ連携を図っている。また、隣家には防災などの協力支援者として協力をもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時に接遇マナー研修に参加し、プライバシー保護についても勉強会を実施することで、日頃の言葉かけや対応について振り返る機会を作っている。	利用者は、人生の先輩であると同時に人格を尊重し誇りやプライバシー、羞恥心などに配慮しながらケアするよう心がけている。新人職員には、接遇やプライバシーの研修を義務づけており、対応に失礼がないよう職員教育にも力を入れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、常に思いや希望を聞き出せるような問いかけを行うよう心掛け、本人と一緒に考えながら決定するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や食事の時間などはだいたいホームのペースで行っていきますが、その人のその日の状態や気分にとり、自分で決めた日課をこなしたりしながら、自由に時間を使っています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者の以前からの習慣を尊重して、その人らしい身だしなみや着慣れた服を準備するなど出来なくなったことを手伝い支援している。また、2ヶ月に1回床屋が来訪して散髪ができるように支援を行っている。		
		○食事を楽しむことのできる支援		食事形態も多種多様で、ミキサー食、刻み食、また特殊な介助食の必要な方	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には食事の準備や野菜の皮むきなど出来ることをお手伝い頂いている。好みなども献立に合わせて取り入れたりしている	や、食事介助も数石あり、誤食のある方への対応や一部介助など、利用者がゆっくり自分のペースで食事が楽しめるようケアしている。また、野菜の皮むきなど食事の準備を手伝いできる方にはしてもらっている。花見や遠足先では弁当を楽しんでいる。家族や地域から食材の差し入れもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立による食事を提供。食事制限などは指導を受け、個別に対応している。水分量についてもチェック表を用い、好みに合わせた飲み物を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、実施している。必要に応じては、かかりつけ歯科医の訪問を依頼、相談しながら支援の方法を学んでいる		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの状態にあった方法を検討し、安全にポータブルトイレやトイレの使用が行えるように支援している。排泄意を訴えない方は、排泄のパターンを職員が把握し、声かけや誘導を行っている	昼夜問わずポータブルトイレの利用者や、夜間帯だけの方などがあるが、ほとんどの方がポータブルを活用し排泄の自立を図っている。トイレでの排泄は、排泄が終わった合図をコールで知らせ職員が対応している。栄養や水分補給、内服薬コントロールにて排便の習慣を整え気持ちよく過ごしてもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便状態と水分摂取量を記録。便秘の状態に応じて、主治医より指示されている下剤の調整を適切に行い、日常的には、十分な水分摂取や入浴時のマッサージ、散歩などを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者との話し合いの上、基本的な設定はあるが、その日の状態や希望に配慮、いつでも入浴して頂いている。また、個人の習慣を尊重し気持ち良く入浴が出来るよう支援している。	利用者の希望に応じて曜日や一番風呂にこだわる方に対応している。また、温泉を希望される方には、同法人の他施設で温泉を楽しんでもらうなどしてもらっているが、家族と一緒に外出し、温泉利用される方もある。基本的には、いつでも希望や必要に応じて入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に気を配りながら、ゆっくりと休める環境づくりに努めている。一人ひとりのこれまでの習慣を崩すことなく、気持ち良く眠れるよう室温調整、寝具調整を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について疑問があれば、医師・医療連携看護師へ相談している。日々の薬の管理は職員もよく理解し、疑問があれば、職員間で話し合っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの意見や趣味を活かしながら、活動して頂いている。可能な限り本人の希望を聞き、楽しく生活出来るよう支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は散歩やドライブに出掛けたり、個別には、温泉や一時帰宅、墓参りなどの支援を行い、付き添いが難しい時には、ご家族や知人（近所の方）へ協力を依頼するなど、出来る限り本人の希望に添えるよう支援している。	毎日、近隣を職員と散歩したり駐車場で外気浴しながら地域住民と交流することが日課となっている。ドライブは、月に1回程度は実施しているが、2、3回外出することもある。「伝ちゃん祭り」「ふれあいフェスタ」などの年中行事も恒例になっており、地域行事（六月灯、クリスマス会、敬老会）にも積極的に出かけて交流をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の希望や力に応じて所持している。困難な利用者については、ご家族の理解の上、預かり金として管理し、日用品や嗜好品を常時購入出来るようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>いつでも電話が掛けられるようにホールに電話を設置し、電話を掛けるお手伝いをしている。聴力障害のある方には、日常の様子を伝える手紙を書くことをすすめ、家族との繋がりを大切に支援している</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には、季節の花を置いたり、共同作業で取り組んだ壁飾りで生活の中に季節感を取り入れている。ホールには、台所が隣接されており、食事の準備や音、においを感じる事ができる。</p>	<p>玄関内には、2年前地域文化祭で金賞を頂いた大作が壁に掲示されており、ひと際目を引いている。また、扉を開けると食堂兼居間、台所で過ごす利用者や職員の顔が視界に飛び込んで来て、そこには穏やかな生活風景がある。季節の花を飾り壁などには、季節を演出した作品や利用者個人の力作などが展示されている。トイレや浴室、室内も含めてよく整理され、掃除が行き届いており、採光もあって換気された気持ちの良い共用空間である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間の広さが限られているが、利用者様が利用しやすく、落ち着ける位置を考えてソファや椅子を設置している。屋外にも椅子を設置し、気候の良い日は日光浴を楽しまれている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所時、本人やご家族と相談し、使い慣れた家具や品物を可能な限り持参して頂いている。入居後も本人が居心地よく生活できるためのものを準備するよう努めている。</p>	<p>居室には、ベッド、エアコン、クローゼット、洗面台が常設されている。また、本人の使い慣れた家具（机・ソファ・整理箱など）テレビ、調度品、家族写真やレクリエーション時の作品などそれぞれの利用者の個性が感じられ、過ごしやすく居心地がよい環境になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>それぞれの身体機能の把握に努め、できることを安全に行えるよう手すりの位置や家具、ポータブルトイレの配置など、常に検討・工夫している</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない